

テクニカルメタルワーク科の広報活動について

宮崎職業能力開発促進センター 青地 学

1. はじめに

宮崎職業能力開発促進センターのテクニカルメタルワーク科（募集科名：金属加工技術科）では、求職者を対象とした6か月間の溶接を主とした金属加工の職業訓練を実施している。

しかし、応募者の確保において厳しい状況が続いている。この理由として、求職者にとって溶接や板金の訓練内容や就職して働く姿がイメージしにくいことが聞かれる。

そのため、製作品の展示、訓練体験、訓練修了後の活躍事例の紹介等を実施している。展示品は訓練課題の一例にとどまらず、パンフレットスタンドや展示品を置く棚そのものまで製作して、親しみやすさを高めることをねらっている。

本稿では、その最近までの5年間の取り組みを紹介する。

2. 実習場の展示

テクニカルメタルワーク科の実習場には、毎月定例で開催している施設見学会の参加者だけでなく、個別の見学者も来られる。そのため、個別の見学者に対しては、実習場内に設置している展示品を収めたキャビネットを用いて説明の補足としている。

しかし、当初は図1に示すとおり、展示品が分類されていない上に、重複が多くみられる状況であった。

そこで、図2に示すように、訓練内容を明示して分類し、重複をできるだけ省いた。さらに、訓練課

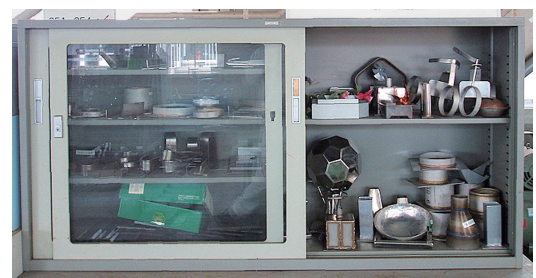


図1 整理前の展示用キャビネット



図2 最近の展示用キャビネット

題の展示用見本を製作することで、見学者だけでなく、受講者への訓練内容の理解増進につなげている。

3. 玄関ホールの展示

宮崎職業能力開発促進センターの来所者に広く各科の訓練内容を広報するため、当センターの本館玄関ホールに図3に示す展示棚を設置している。

溶接関連の展示において、溶接試験材料にアークが発生している様子を図4に示すモール等により表現した。



図3 施設内の訓練紹介展示



図6 公共職業安定所設置の展示棚 (2)

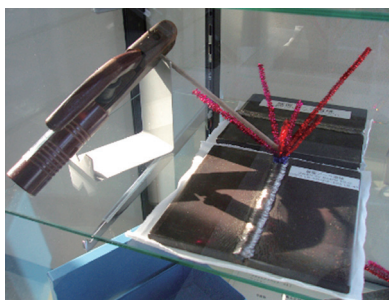


図4 溶接試験材料の展示

4. 公共職業安定所における展示

求職者への職業訓練の広報を強化するため、近隣の公共職業安定所に図5に示す展示棚を設置している。

この展示棚は、テクニカルメタルワーク科でフレーム、住宅リフォーム技術科で天板、CAD・NC加工科でフレーム上端の飾りを製作している。展示品は電気関係科も含むため、施設全体での広報の推進と、製作を通じた人材育成につなげている。ま



図5 公共職業安定所設置の展示棚 (1)

た、設置可能な寸法で作製することにより、図6にも示すように、現在は複数の公共職業安定所に展開している。

これらの展示によって、職業訓練に対する親しみを持ってもらい、訓練生の募集活動で間口を広げることを狙った。実際、展示品を見た求職者が、自分自身でもこのようなものづくりをしたいと、テクニカルメタルワーク科に入所した例があり、効果は出ている状況である。展示棚の清掃や展示品の入れ替え等を継続していくことが必要である。

5. 広報につなげる実用的な製作品

公共職業安定所や施設内において、図7から図12に示す広報につなげる製作品を実用に供している。

図11のペン立てや図12の書類入れについては、板金や溶接による製作の一部の工程を施設見学会の際に実演しており、関心度の向上を図っている。図13は加工中の様子である。



図7 書類入れ (1)



図8 パンフレットスタンド



図13 曲げ加工中の書類入れ



図9 印鑑立て



図10 スタンプ立て



図11 ペン立て



図12 書類入れ (2)

6. ハロートレーニングメディアツアー

宮崎職業能力開発促進センターにおいて、ハロートレーニングメディアツアーが開催された。これは、報道関係者を対象とした職業訓練の広報企画で、宮崎労働局と当センターとの共催で、平成30年12月13日（木）に実施された。施設見学、修了生によるティグ溶接の実演、溶接訓練体験、意見交換会等の構成であった。

図14に示す溶接の実演は、当センターのテクニカルメタルワーク科を修了し、九州オリンピア工業株式会社に勤務する甲斐里美氏に担当して頂いた。ステンレス鋼製のバーナーの部品は美しく溶接されており、報道関係者のみならず、受講中の訓練生からも高い関心を集めていた。

訓練体験としては、図15に示すステンレス鋼製のペン立てをティグ溶接により組み立てるものとした。これは、公共職業安定所の職業訓練担当者を対象とした訓練体験においても作製している。



図14 溶接の実演

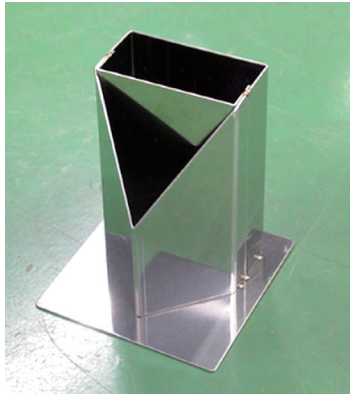


図15 ステンレス鋼製ペン立て



図17 意見交換会



図16 ティグ溶接訓練体験

どの報道関係者も溶接は初めてということもあり、図16に示すように、テクニカルインストラクター（職業訓練指導員）が溶接トーチに手を添えるとともに、溶融状況を確認しながら助言した。ごく短時間の訓練体験ながら、液晶のしゃ光面越しに初めて見るアークと溶融池に驚かれるとともに、持ち帰って使用できるペン立ての出来栄に満足してもらえた様子であった。

訓練体験後は会議室へ移動し、報道関係者と当センターの修了生やその上司、受講中の訓練生との意見交換会となった。その様子を図17に示す。

溶接を実演した甲斐里美氏は、テクニカルメタルワーク科の職業訓練により、未経験だった溶接の仕事への道が開けたとのことで、さらに子育て中の現在は生産が多忙な状況でも定時に退社できる環境があることもあり、5年間勤務を続けられている。上司である迫水平治製造部長にも出席していただき、ポリテクセンターの修了生を採用した感想として、

安全や機器の操作といった基本を既に習得しているため、人材育成にかかる時間が短縮でき、多忙な現状である企業としては利点があることがあげられた。また、女性のきめ細かさと真面目さが活かされており、会社としても長く続けられる環境を提供して、さらなる技量向上が期待できることもあげられた。

このような企画により、溶接の仕事やその職業訓練の認知度が期待できる。また、利用者の声として当センターのホームページにおいて、その他の訓練修了後の活躍事例も紹介している。

7. おわりに

宮崎職業能力開発促進センターのテクニカルメタルワーク科における広報活動について紹介した。広報の推進により応募者を増やし、訓練に関連する求人ニーズに応えられるよう、引き続き活動に取り組みたい。